

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成26年5月15日(2014.5.15)

【公開番号】特開2014-52572(P2014-52572A)

【公開日】平成26年3月20日(2014.3.20)

【年通号数】公開・登録公報2014-015

【出願番号】特願2012-198121(P2012-198121)

【国際特許分類】

G 02 B 26/12 (2006.01)

B 41 J 2/44 (2006.01)

H 04 N 1/113 (2006.01)

G 02 B 13/00 (2006.01)

G 02 B 13/18 (2006.01)

【F I】

G 02 B 26/10 103

B 41 J 3/00 D

H 04 N 1/04 104A

G 02 B 13/00

G 02 B 13/18

【手続補正書】

【提出日】平成26年3月28日(2014.3.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0003】

特許文献1においては、このサグによる影響を小さくするため、光源からの光束がポリゴンミラーに入射する位置(ポリゴンミラーの回転中心と第1光学系の光軸との距離h)を所定値以内にすることで、サグを、基準偏向主光線に対して対称に近い状態にしている(0016参照)。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0038

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0038】

ところで、図2に示すように、ミラー面5Aでの反射点からレンズ面L1までの距離や、レンズ面L2から被走査面51Aまでの距離は、被走査面51A上の像高yによって変化する。また、入射光学系14からの光束がポリゴンミラー5のミラー面5Aに当たる位置は偏向方向によって異なるため、被走査面51A上では、像面湾曲などの画像の歪みが発生する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0048

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0048】

上記の設計の結果、得られた光学系の像面湾曲、 f 特性およびリニアリティ特性を実施例 1 について図示したグラフが、図 6、図 7であり、これらの特性の PV 値 (Peak to Valley : 山と谷の値の差) と、各実施例および比較例のレンズシフト量 D_1 、レンズチルト量 T_1 、レンズ面 L_2 のシフト量 D_2 、レンズ面 L_2 のチルト量 T_2 の値をまとめたのが図 8 である。